

ノベルティグッズ アクセサリ等の台紙

様々な形状で製作可能です! (小ロットでもOK)

弊社のオンデマンド印刷機を利用して、
様々な台紙の印刷が可能です

- ・用紙も様々な種類、厚さを用意しております
- ・カットサイズも指定できます
- ・シール紙への印刷も可能です
- ・バーコードシールの印刷もOK



コウカノカ
7
Vol.94

発行者：株式会社宏和
所在地：〒577-0012 東大阪市長田東1-7-22 TEL 06-6789-2313

(株)宏和

(株)宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウカノカ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.94

2023

7
July



先日、創業160年の老舗和菓子メーカーの社長の話を聞かせていただく機会がありました。守るべきところは守り、変革すべきところは変革し、素晴らしい経営をされていました。特に、「好きを極めろ」という言葉は心に響きました。セミナー等もリモートが多くなりましたが、やはりリアルに聞くと違います。

代表取締役 日笠宏昭



株式会社 宏和

Kowa Corporation

東大阪市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313 FAX 06-6789-2339

<https://www.d-kowa.co.jp/>

<https://scanning.jp/>

オンデマンド印刷 会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
 冊子印刷 取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
 電子化業務 紙文書・紙図面スキャン(電子化)サービス、データエントリー(入力)、データコンバート
 CAD業務 CADデータ出力、CADデータ入力(トレース・設計)、電子納品データ作成
 コピー・製本 大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
 その他 人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャン、WEB制作

AI-OCRはホントに使えるか？

OCRとは、Optical Character Recognition/Readerの略で日本語に直すと「光学文字認識」です。画像データから文字を読み取りテキストデータへ変換します。認識の精度は、元の画像の鮮明度や使用するOCRツールによって変わりますが、基本的には、規則に沿った文字しか読み取れず、規則から外れると認識精度が落ちてしまいます。



AI-OCRとは、OCR（光学文字認識）にAI（人工知能）を取り入れたシステムのことです。OCRに、AIによる学習機能が付加され、データを読み取れば読み取るほどAIが学習をし、より正確に文字を認識できるようになります。従って、手書き文字のように、OCRではほとんど認識できなかった言葉も認識できるようになりました。

AI-OCRはどんな時に効果を発揮するか

- 注文書、契約書、請求書など、決まった言葉がよく出てくる書類の場合、回数を重ねるごとに学習され精度が改善されます。手書きであってもAIが推測することで認識精度が上がっていきます。
- FAX文書は、文字が鮮明でなかったり、傾いていたりして、OCRだけでは認識率が低かったのですが、AI-OCRによって精度が上がりました。
- 似たような文字での誤認識率が下がります。例えば、「力（ちから）」と「(カタカナの)カ」や「一（いち）」と「-（ハイフン）」のような場合、OCRではかなりの確率で誤認識が発生しますが、AI-OCRでは学習機能によってほぼ正確に認識します。
- 請求書のように、取引先ごとにフォーマットが異なる書類（非定型書類）でも、中に記載されている内容を認識し判断することによりかなり正確な認識が可能です。

実際の業務で使用するには

AI-OCRによって認識率が向上したと言っても、100%の正確性は求められません。従って、100%自動処理で業務ができることは考えにくいです。例えば、FAXの注文書から、社内のシ

ステムに入力をするような場合、入力→確認→システム登録という流れが考えられますが、AI-OCRによって、最初の入力部分が削減され、確認→システム登録という流れになります。更に、RPA（Robotic Process Automation：パソコンで行っている事務作業を自動化できるソフトウェアロボット技術）を使用することにより、確認だけ行えば、自動的にシステム登録までできる、といったことも可能でしょう。

AI-OCR導入の検討で大事なこと

- 自社の書類に対する認識率を確認します
- 費用対効果の見極め
(導入による人員削減、残業代削減が、導入費用を上回るかどうか。AI-OCRツールのメニューも各社様々なので最適なメニューを検討します。)
- RPAとの連携が必要な場合は、その手法と費用
(例：注文書の会社名を、顧客コードに読みかえてシステムに登録するような場合、読みかえ作業を自動化することにより業務フロー全体の効率化を図ることができます。)
- リモートワーク推進によるメリット
(例：クラウドサービス利用により、ペーパーレスFAX受信→AI-OCR→確認作業→システム登録といった流れがリモートでできるようになります。それによって人材確保にも役立ちます。)

AI-OCRツール ランキング

Webサイト「ITトレンド」によると、2023年6月のAI-OCRの資料請求ランキングは、

1. DX Suite (AI inside 株式会社)
 2. SmartRead (株式会社 Cogent Labs)
 3. invoiceAgent (ウイングアーク1st 株式会社)
 4. T-CHECK Plus (株式会社東計電算)
 5. スマートOCR (株式会社インフォディオ)
- となっています。

その他にも、請求書、納品書、契約書に特化されたサービスも多数あります。



AI-OCRの将来性

現在は、注文書や請求書等、会社の受発注業務や経理事務における活用が多くなっていますが、定型的な書類だけでなく、自由記載の書類についても認識率が上がってきているようです。そうすると、様々な日報やメンテナンス記録など、現場で手書きで作成した書類にも応用が進んでいくかもしれません。